

とうり さと

桃李の里

福島市立中野小学校 学校だより

令和3年3月3日発行 (No. 31)

文責：校長 白土 勲



今年度最後の授業参観



お忙しい中、今年度最後の授業参観にお越しいただきありがとうございました。

お子様の1年間の成長の様子はいかがだったでしょうか。新型コロナウイルス感染症拡大予防対策のために様々な行動が制限された状況の中、保護者の皆様におかれましては、お子様の成長について大変ご不安だったことと思います。コロナ禍でも子どもたちは自分で考え、判断し行動するということを担任の先生の深いかわりの中で継続して行ってきました。たくさんの教育活動を通して、一回りも二回りも大きく成長できたお子様の様子を見ていただけたのではないかと思います。

子どもは本当にすごいです。その可能性は未知なるもので、子どもは大人が考えている以上にいくらかでも成長できるのだと改めて確認することができました。

修了式、卒業式まで残りわずかとなりましたが、変わらぬ御支援御協力をよろしく願いいたします。



「人」として本音で向き合ってくれる大人



大阪市立大空小学校初代校長先生の木村泰子先生がこのように書かれています。

「何ができるかわからないけれど、その子が安心できるまでそばにいる覚悟をもつだけでいいのです。子どもは大人よりも見えないところを見る達人です。「人」として本音で向き合ってくれる大人を子どもは求めています。」(総合教育技術 12月号 2020 より引用)

「人」として本音で向き合ってくれる大人がそばにいれば、困っている子どもも安心して自分で答えを見つけていくと書かれています。いつもできるとは限らないかもしれませんが、私たち教員も保護者の皆様もできる限り、一人の「人」として子どもに寄り添うことができればと思います。

【校長のつぶやき】中野小学校の子どもたちは、帰りに職員室に来てあいさつをして帰ります。先日、職員室に先生がいなかったことが分かると、わざわざ校長室まで来て佐藤 玖龍君と佐藤 生希さんはあいさつをしてくれました。あいさつの意味を考えて行動できた2人の成長に感動してしまいました。なかなかできないことだと思います。さすが6年生!

